

平松記念病院

第25号

題字：金塚 武雄様



平松記念病院 陶芸窯の風見鶏

当院におけるクリニカルパスについて



平松記念病院
診療部長 矢萩 英一
クリニカルパス委員会 委員長

クリニカルパス(以下パス)は、患者さんが入院されてから退院されるまでに受けられる治療内容をまとめた計画表のことです。時間軸に沿って各部署(医師、看護、薬局、作業療法など)の治療の流れが示され、「入院したら初日にはどの部署が何をして、1週目にはどの部署が何をして、1ヶ月後には何をするのか」という治療手順が分かりやすく表にしてあります。これを使うことで患者さんも病院スタッフも、どの時期にどんな治療がされるのかをスムーズに共有できます。適切な医療を適切な時期に提供することは早期退院につながりますし、また、全スタッフが治療計画を共有することはチーム医療の実践にも役立ちます。もちろん、治療経過はそれぞれの患者さんで違いますから、途中で症状や状態の評価を行い、各部署みんなでカンファレンスを行いながらパスを適用しています。

当院は平成18年11月からパスを導入し、現在は新たに入院される患者さんの大部分にパスを使用しています。平均入院日数は60日台にまで短縮し、退院された患者さんにご回答頂いているアンケート調査での満足度も上々のようです。また、昨年の第117回北海道精神神経学会、今年の第39回日本精神科病院協会精神医学会において、高橋玲緒奈医師がパスに関する演題を発表しました。当院のパスに対する取り組みが、患者さんへのより良い治療の提供につながればと願っています。

「第39回日本精神科病院協会精神医学会」に参加しました！

平成23年7月14日、15日に第39回日本精神科病院協会精神医学会が札幌コンベンションセンターで行われました。精神医学会は日本全国から集まった主に精神科医療・福祉従事者が研究を発表し、意見・情報交換をする場で、年に1度全国各地で行われています。

今年は札幌市で行われたこともあり、当院からも各部門でたくさんの演題を準備し、発表しました。フロアからもたくさんの質問や意見が挙がり、貴重な意見交換を行うことが出来ました。

今後も当院では精神科医療福祉に関して臨床だけでなく研究にも力を入れて取り組んでいきます。

文責 高橋

スライド発表演題

- 「札幌の一民間病院における睡眠専門外来の現状」
- 「平松記念病院におけるクリニカルパスの現状」

ポスター発表演題

- 「復職支援「セルフケアプログラム」における薬剤師の関わり」
- 「『退院時くすりのチェックシート』の運用からみえた薬の分包と自己管理について」
- 「患者の語りを聞くことの意味～ナラティブ・アプローチの有効性～」
- 「患者一看護者関係の発展プロセスに焦点を当てた考察」
- 「精神科における院内全面禁煙～当院での実際～」
- 「多職種共同によるセルフケアプログラムの試みー事例から見た今後の展望ー」
- 「当院における外来作業療法へのとりくみ」
- 「病棟閉鎖に伴う退院支援事業を通じて得た経験」
- 「長期デイケア通所者の『継続力』について」
- 「地域移行推進事業により退院となった患者へのその後の取り組みについて」



公開講座のお知らせ

テーマ「“昼間の眠気”に潜む様々な睡眠障害」

講師：当院 副院長・睡眠医療センター長 武藤 福保医師

日程：H23年11月12日(土)13:30~14:30

場所：平松記念病院 1階 外来ホールにて

参加無料：予約制ではありませんので、当日直接会場へお越しください。

問い合わせ先：地域医療連携室 TEL(011)-561-0708

病院対抗ソフトボール優勝！！



7月24日(日)に旭川当麻町において第23回病院対抗ソフトボール大会が行われました。会場が比較的高地にあり、程良く風も吹きぬけていて、晴天の夏日であったにも関わらず、心地よく体を動かす事が出来ました。昨年の大会では優勝を果たし、今年はマークされる立場にあったのですが、見事端野病院に勝利し優勝する事が出来ました。旭川の大会はこれで2連覇、石狩で行われる札幌市精神科対抗ソフトボール大会を含めると4大会連続優勝となりました。

9月に行われる石狩の大会も含め、今後もマークが厳しくなっていくと思いますが、頑張って優勝目指していきたいと思います。



平松アワー

笑って
きくとも

高橋 满里

高橋 满里です。
宜しくお願い
いたします。

福寺 博光

五十嵐 洋介

藤川 雄治

名喜元 雅二

尾形 多恵士

田起子

北川 哲也

吉田 雅幸

高橋 满里

花井 葉子

今回のゲストは
この方!!
高橋 满里さん

Q.薬剤師になったのはどういうきっかけですか？

A.勉強は国語と社会が苦手でしたが、理系の教科は好きでした。高校の化学の女の先生がとにかく実験が好きな先生で、授業の半分くらいが実験でした。実験ってなんて楽しいんだろうと思ったので薬学部に進みました。しかし、大学に入ってからは毎日実験の生活だったのでさすがに飽きましたが(-_-;)

Q.病院の薬剤師はどのような仕事ですか？

A.薬を作ることはもちろん一番大事な仕事です。また、医師や看護師などの医療スタッフや患者さん・ご家族に対しても薬についての情報提供をするなど、薬の専門家としてチーム医療を支えています。でも、薬剤師が3人しかいないので、病棟へ足を運ぶ時間が少ないので悩みます。



Q.薬剤師としてのやりがいは何ですか？

A.もちろん、患者さんの薬に対する不安がなくなり病状が良くなることです。「いつも薬を作ってくれてありがとう」と言われるととても嬉しいです。特に統合失調症の患者さんは、薬をきちんと飲めないことが大きな問題となっています。患者さんが病気を理解して治療を受けることが大事なので、私達は患者さんが安心して治療を受けられるように、疑問や不安の解消に努めています。いつでも気軽に声を掛けて欲しいと思っています。

Q.趣味・特技などありますか？

A.趣味は家庭菜園と子育てです(笑)。大学生・高校生・中学生の息子達はとにかくかわいいんです。特技はその時ある材料で何か料理が作れる事と、余った料理を別な料理にリメークすることかな?だいたいバレますが…。

Q.今後の抱負は？

A.精神科分野でも医療はどんどん進歩しています。新しい薬も開発され発売されています。患者さんがよりよい生活を送れるよう、安全で適切な薬の種類・量が処方されるように薬物療法に関わっていきたいと思います。また、入院中の治療から退院後の社会復帰まで支援していきたいです。2009年には精神科領域での実務経験や実績、講習で知識と技能を高め、試験に合格することで認定される「精神科薬物療法認定薬剤師」という専門的な資格を取得することができました。これからも患者さんのために更に研鑽していきたいと思います。



高橋 满里さんのプロフィール

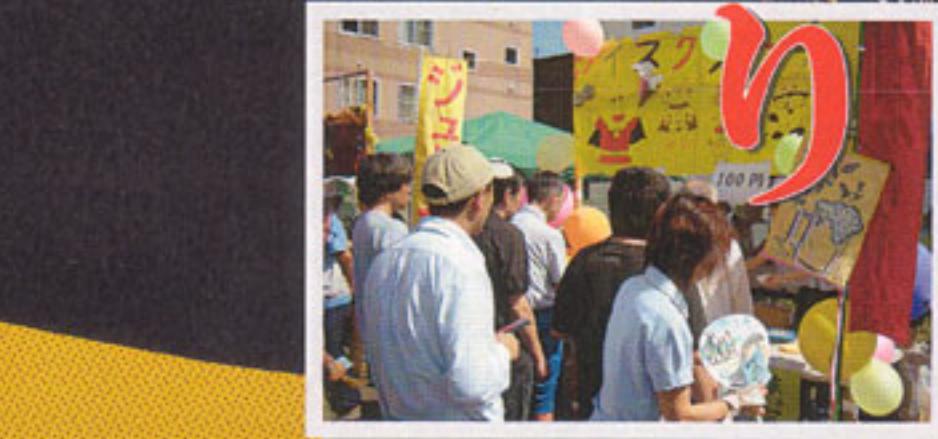
上川郡東川町出身。旭川東高等学校、北海道薬科大学を卒業し、薬剤師資格を取得する。その後医薬品卸会社勤務を経て、当院に勤務となる。家庭では3人の男の子の母親でもあり、大量の食事作りに追われる毎日である。



去る8月3日「夏祭り」が開催されました。今年は天候に恵まれ、絶好のお祭り日和の中フランクフルト・鯛焼き・アイスなどの出店が並び、イベントでは北大「縁」のよさこい舞踊も大変盛り上りました。夜は当院屋上から打ち上げられた北大な花火で閉められました。

合同レク

夏祭り



理念

適切な精神科医療・保健・福祉を目指し次の二つの柱を基礎に据えます。

1.精神障害者の医療および保護を行い自立のために、社会復帰および社会的経済活動への支援をします。

2.その障害の予防に取り組み、市民の精神保健の向上を目指し、地域に根ざした病院を目指します。

基本方針

理念を実現するために5つの基本方針を定めます。

- 1.私たちは、人権を尊重し、信頼と満足感を持っていただけるように努めます。
- 2.私たちは、あいての身になって受容的態度をもって接するように努めます。
- 3.私たちは、自己研鑽に努め、情報を共有し、連携・協力し合うチーム医療を目指します。
- 4.私たちは、常に新しい医療・保健・福祉システムを提供できるように努めます。
- 5.私たちは、地域における自らの役割を認識し、地域に貢献します。

患者さんの権利と責務について

患者さんの権利

私達は、患者さんの以下の権利を遵守して日々の医療を行います。

- 1.安全で適切な医療を公平・平等に受ける権利
- 2.個人として人格を尊重される権利
- 3.治療・病状・検査などについて、十分な説明を受ける権利
- 4.十分な説明や情報提供のもと、どのような医療を受けるかを選択する権利
- 5.個人情報やプライバシーが守られる権利
- 6.セカンドオピニオンを受ける権利
- 7.精神保健福祉法を遵守した医療を受ける権利

患者さんの責務

- 1.最善で適切な医療を受けるために、病状経過や過去の治療歴・アレルギー歴などの情報提供が必要があります。
- 2.治療効果をあげるために、医療関係者と共同して治療に取り組む必要があります。
- 3.円滑な医療サービス体制を確保するために、病院や社会生活上のルールやマナーを遵守する必要があります。